

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070300310	
法人名	医療法人共和会	
事業所名	グループホーム塩田	
所在地	上田市中野29-2	
自己評価作成日	平成23年11月23日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成24年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、自宅に近い住み慣れた地域で、同法人の充実した医療による健康管理がなされ、隣接する畑で野菜や花作りを楽しみ、行事やドライブで季節を感じられる生活を共に送って頂ける様に努めています。又、音楽療法を取り入れ、情緒の安定と意欲を引き出し、一人ひとりのペースや個性を生かした支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同医療法人が経営する病院やケアホームなど複数の介護系事業所が敷地内にあり、奥まった処にグループホームの平屋の建物がある。事業所北側は、桜並木になっており、別所線の電車が通り、その向こうには、塩田中学校の校舎やテニスコートが隣接し、中学生の元気な姿がみられる。南側は、ボランティアの方々が、手入れて下さった畑があり、陽当りもよく、洗濯物干場も設置されている。事業所は平成12年に開設され、利用者の重度化とともに、昨年看取りに取り組み、研修を重ねながら、揺れ動くご家族と共に、医療関係者、職員一丸となってお見送りを経験された。現在、その経験を振り返り、まともに取り組まれている。運営推進会議は、家族の方々にも参加頂きやすいような工夫をし、ほぼ全員のご家族の参加があり、意見交換も活発にされ、外部からの様々な貴重な意見をサービス向上に役立っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な住み慣れた場所で、安心してゆったりと住み続ける事を目的として、独自の理念を職員全員で見直し作り上げ、日々努力をしている。経営理念として「寄り添う」「付き合う」「断ち切らない」地域の方々と「共に考え共に築く」なじみの場所で暮らし続ける事を支えていく。	事業所独自の理念は、玄関に掲示されている。職員会などの会議の中でも折に触れて、理念に沿ったケアについても、検討されている。この理念は、開設以来、毎年検討を重ね、3年ほど前に職員で検討され現在の理念を作成した。理念作成の検討過程の資料を拝見しながら伺った。	職員全員で時間をかけて作り上げた理念であり、事業所紹介のパンフレット、ホームページ等に載せて、活用されることを期待する。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院祭をきっかけに併設病院の通路の壁に、グループホームの情報や利用者の作品を展示する事で、病院に訪れた地域の方々が徐々に関心を持って貰えるようになった。又、手作りのボランティア募集のチラシを地域に掲示したり、自由に持参してもらう事により、少しずつボランティアの支援を得られるようになった。法人の中でも関心を得られ、仕事終了後のボランティアを希望される職員もでてきている。	秋の病院祭では、模造紙2枚大の入居者が作成した貼り絵の作品等を掲示し、事業所の紹介文を貼り、合わせてボランティア募集のチラシも置いた。地域のボランティアの方が毎日の様に訪問され、畑の手入れ、傾聴、お散歩や外出などの支援に活躍されている。中学生から大学生がボランティア等で訪問し、小学校の運動会見学や保育園などに出向き子どもたちとの交流も持たれている。	ボランティアの方々が訪問して下さることは、事業所の大きな財産であり、受け入れの記録もされているが、受け入れ体制の整備(保険など)をもう一度検討されることを望みたい。作品を地域の公民館の文化祭等への出品も検討されたらどうか。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年一回の病院祭では、地域の方々へ施設の見学や案内を行っている。又、随時、地域の方々から認知症の相談も受けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々との繋がりや周知していただくきっかけの場として、又、皆様が求めている事を伺う事が出来る機会を多く持つ様に努め、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見を貰う様にしている。	運営推進会議は、隔月第4土曜日に予定され、市の担当課職員、地域包括職員、ご家族、利用者、老人会、区長(地域の区長さんに順番に依頼)、郵便局長、保育園先生など議題に応じ様々な方から広く意見を頂いている。ご家族は、毎回たくさんの方が参加され、堅苦しくない様工夫している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ連絡を取って行き来をしている。地域運営会議では、利用者の暮らしぶりやニーズから率直な意見を貰い、サービス向上に具体的に活かすようにしている。	必要に応じ、電話したり、時には直接担当者を訪問し、意見交換や助言を頂いている。昨年は利用者に必要なサービスを市と協議し、新設している。介護相談員さんが2名隔月で訪問している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員全員で取り組んでいる。しかし立地条件から玄関はやむを得ず施錠しているが、法人にも積極的に働き掛け、抑圧感のない暮らしの支援が必要である事を理解して頂き、施錠解放に向け鍵を掛けずに安全に過ごせるような工夫を模索中である。</p>	<p>事業所独自の拘束の宣言を玄関に掲示し、事務室内にも掲示している。玄関の施錠解放に向けて、法人内で繰り返し検討し、ご家族にも説明し、解放する予定である。職員全体で身体拘束をしないケアについて研修し、安全面を考えつつ、日々取り組まれている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全員の問題として、利用者に最適な関わりを持てるように話し合ったり、勉強会を実施して周知徹底に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修等に積極的に参加しているが、職員全員が理解をする必要があると考えている。その上、利用者に必要が生じた場合、より良い支援をしていく為に包括支援センターの社会福祉士に相談・依頼をしてお互いに連携を取り合いながら理解を深め、活用できる様努力している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>理解・納得できるように、十分に時間を取りその都度質問や確認をとりながら説明をおこなっている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>生活相談員・ご家族・ボランティア等来訪者の意見・要望を参考にして、職員会議で検討し、即実践できる事は行っている。</p>	<p>家族会は6月と12月に計画され、今年度は運営推進会議の日に同時開催し、ほぼ全ご家族が参加されている。ご家族同士の話す場面もみられ、ご家族間の交流の場ともなっている。作業などを一緒に行うことで、本人やご家族の思いや意見が活発に出され、それを運営に反映すべく検討していると伺った。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、職員会議を設け、その時に意見を出してもらっている。又、必要に応じ緊急会議を開催したり、日常的に問題がある場合も随時意見を出してもらい、現場で起きている状況や変化を知り、努力や成果について把握する様努めている。</p>	<p>職員会議は、全員が参加できるように、時間やボランティアの活用など工夫している。会議は、職員が順番に記録し、職員の発案で脱衣所の敷物を改善するなど、また、業務についての反省など、活発に意見交換がされている。法人全体の会議内容も、報告され、職員の意見も検討されている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入に参加している。今後の取り組みに向け、当法人の規定を勘案しながら検討中。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に参加できる機会を確保し、順番にキャリア別研修会、施設内外研修、地域の中でのグループホーム勉強会等で、学んだ事を日頃のケアにどの様に活かし、自己を高めていくかをお互いに発表し合い、職員全員で共有する様に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、県の働き掛けによる統合評価事業に参加し、積極的にフレンド会、事例検討会等、宅老所・グループホーム協会の研修やグループホームへの相互訪問活動を通して、ケアの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの十分な情報提供をして頂く事や、利用前に利用様と家族での見学及びお試し期間を設け、少しずつ慣れていってもらい、安心感を持って頂く様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に気を配って対応している。個別に時間を取り、御家族の都合に合わせてその都度の対応にも心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院・老健等、併設機関の協力を得ながら、又他施設の連携を密にして、本人の希望に添える様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の出来る力を引き出し、職員が教えて頂きながら生活を共にし、「寄り添っていく」という考えに立ち、お互い様の関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間の許す限りご本人と共に過ごして頂ける様、365日ホームを解放し、訪ねてきやすい雰囲気作りにも配慮している。時には皆さんと一緒に食事をしながら、本人との絆を深めていけるよう、グループホームでの暮らしやケアにも家族も関われる場面や機会を持って頂き、本人を支えていく為の協力関係が築ける事が多くなっている。今年度に入り、一週間に5日位は誰かしかご家族・知人の面会があり、1日2~3名いらっしゃる事が多くなった。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の状況において個人差はあるが、出来る範囲での支援をしている。又、利用者にとって唯一肉親の関係が途切れぬようグループホームを家族の泊りの場としても提供している。毎月の命日に墓参りを続けている利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	入居者の仕事の知り合いが訪ねてきたり、昔の友人が訪問したり、遠方の家族が訪れるなどしている。花見に自宅や思い出の地など、なじみの場所に出かけてもいる。事業所から、入居者が家族へ電話をかけるお手伝いもしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係性について、情報連携し、全職員が共有できるようにしている。また心身の状態や気分・感情で日々・時々変化することもある為注意深く見守り、利用者同志のトラブルが生じた時はお互いにダメージが残らない様に、調整役となって支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の生活に困惑してしまわれ様、サービスが終了しても相談に応じ、希望に添える様支援している。また、どの職員にも気さくに話が出る様に窓口を広くしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が言葉にした思いや希望。表情や動作を敏感に察知し、生活に反映させている。センター方式を取り入れ、利用者の生活歴や思いを把握し、ケアプランに役立てている。又、他医療機関の受診時にも活用し、情報提供を行い、本人の診療にも役立てている。	センター方式を活用し、研修を兼ねて入居者の何人かについての思いや姿を把握するよう検討している。ご本人の状態に応じて、記録方法を工夫して検討したり、その記録を他病院の受診時にも活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を知ることで「なるほどそうだったか」と理解出来る場面が多々ある。しかしまだ情報不足の場面があり、家族との信頼関係を結ぶ中で、徐々に情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを活用し、生活記録から一人ひとりの一日の様子を報告し、職員全員が利用者の現状把握に努めている。当日の職員はケアの重点項目を共有し、統一ケアに努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や職員が主になっており、家族や他の必要な関係者との連携をとるのが難しかったが、利用者の心身機能低下に伴い医療面で看護師・作業療法士・理学療法士との連携が密になりアドバイスを頂き、ケアプランに反映させている。	介護計画の見直しは3ヶ月ごとを基本としているが、状態の変化に応じて細かく対応し、職員全体で検討している。家族にも、意見を頂いており、記録時も計画を見ながら記録するように様子を工夫している。状態に応じて記録様式を変更する時もある。	介護計画に基づく記録様式は優れており、更に本人の課題の検討とケアの振り返り、そして計画の意味からも、介護計画に対する実践記録方法の徹底または工夫が期待される。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意し、バイタル測定・体温・脈拍・食事・水分量・排泄・毎月の体重測定等、身体的状況及び日々の言葉やエピソードを記録。常に全職員が確認しており、情報の共有をしながら個別記録を基にケアプランを見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや状態・家族の意向に配慮しながら送迎・付き添い等必要な支援は柔軟に対応し個々の満足度を高める様、努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や体調に応じ、関連施設に毎月来る出張理容サービスを利用して頂いている。食事に関しても他施設の事業を活用したり、自治会館に併設されている図書館の無料貸し出しサービスを利用したり、展示物の観賞をしたり。また学生と接する機会を持つなどの暮らしの楽しみを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族の思いを受け止められる関係作りができており、希望に合わせた支援をしている。</p>	<p>かかりつけ医は、法人以外の選択も可能の旨説明しているが、現在は全員が法人の医師で、受診は職員が対応している。他科受診時は、家族対応だが、必要時は職員が同行している。法人内受診時は、電話にて家族に受診内容を報告しているが、歯科受診時は文書で連絡している。急変時などは、法人内の看護師が訪問して対応して頂き、心強いと伺った。</p>	<p>法人内の受診であっても、ご家族には文書で受診内容、検査結果等報告されるよう、法人内でシステムを検討されることを、期待する。</p>
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人内の看護師が全ての利用者の把握をしており、必要に応じて何時でも適切な受診や看護がうけられる。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>同法人内の医療関係者との連携は密にとられており、夜間帯の急変時に対しても迅速な対応がとれる。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>個々に家族との話し合いを行い、十分説明し、納得された上で方針を共有している。重度化に伴いご家族の意思確認も、グループホームで対応し得る最大のケアについて、説明を行っている。それを踏まえ、グループホームでの看取りを経験している。</p>	<p>看取りの指針を作成し、医師の判断で必要時に同意書を頂くよう書式を定めている。昨年、事業所内での看取りを経験した。揺れ動くご家族の気持ちに寄り添いながら、医療関係者、職員とともに話し合いを重ねながら取り組み、最後は入居者、職員で事業所からお見送りされている。振り返りも行い、経験をまとめているところと伺った。また、その時点で他の入居者のご家族にも、看取りに向けての意志を確認している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣に病院があるものの、今後もう一度見直しをし、定期的研修に参加していく機会を増やしていく必要がある。今年度の法改正に伴い、全職員が積極的に取り組む姿勢である。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を経て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練は定期的に行っている。グループホーム独自でも夜間の一人体制を想定した訓練や避難手法等の訓練を行っている。それにより建物周辺の環境整備についても気付きが得られ、法人に働きかけていくきっかけを得られた。</p>	<p>消防署の協力を得て、法人全体の避難訓練を11月に実施され、自治会長、地区消防団が参加されている。消防署直通の通報装置、法人本部への直通電話などが設置され、通報訓練も実施している。昨年冬の事業所独自の夜間避難訓練で課題が見つかり、検討中である。12月に消防署での研修をホーム長が受講し、1月にはより実践的にするべく、施設内研修と訓練を予定と伺った。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援が必要な時も御本人の気持ちを大切に考え、さり気ないケアに心がけている。又、自己決定し易い言葉掛けをする様に努めている。「あせらず待つ」「本人の気持ちが動いてこそ行動に繋がる」事を心掛け、誇りやプライバシーを傷つけない対応に取り組んでいる。	接遇や言葉遣いなど外部の研修会に参加し、所内でも職員会などで研修会報告を実施し、また個々のケアについて振り返り、検討している。ホーム長は、気づいたことがあれば、個別に職員を呼んで話すなどの対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、又、表情や仕草を読み取って、些細な事でも本人が決める場面を作る様に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、それに合わせた対応を心掛けている。その日の体調・様子・精神状態を観ながら、本人の希望に沿った個別対応もしているが、入浴や行事等スタッフの都合で決める事も少なくない。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に着衣はご本人の意向で決めており、見守りや支援が必要な時は手伝う様にしている。自己決定しにくい利用者には、職員が一緒に考え、アドバイスをして、本人の気持ちが高揚する言葉掛けにも配慮している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片づけや食器拭き、テーブル拭きお茶入れ等職員と一緒にしている。また、利用者と同じテーブルで会話を楽しみながら座席の位置にも配慮しながら楽しく食事が出来る雰囲気作りも大切にしている。メニューにも考慮し、希望や食べ易い工夫等、一人ひとりの口腔状態に合わせた支援をしている。	入居者の好みのランチョマットを使い、広く明るい食堂で職員も一緒に和やかに食卓を囲んでいる。職員が個々をみながら配膳しているが、できることはして頂くよう支援している。メニューも決めてはいるが、食べたい物をお聞きして、買い物に出かけ追加するなど柔軟に対応している。家族向けに季節の行事食の写真が、廊下に貼り出されていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事は摂取量の記録により全職員が把握し、量の加減も調整している。又水分摂取量の少ない方には飲み物にも工夫を凝らしたり、言葉掛けにも工夫を凝らした対応をしている。偏食気味の方には好みの物、召し上がった物を詳細に記録に残し、食事の提供の仕方にも配慮している。年一度、関連施設の管理栄養士が栄養バランスチェックを行い、的確なアドバイスを受け、改善に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態にあわせてケアをしている。ご自分で磨く方は職員が最終チェックをすることにより口腔内のトラブル、義歯の破損等についても早期発見に努め、口腔内の清潔の保持や口腔体操も取り入れ、健康管理に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮しながら、利用者の様子から敏感に察知し、トイレ誘導したり、ご本人の求めに応じて支援している。又、布パンツの使用を極力継続していける状態に支援して、本人の不快感を軽減できる様に努めている。	布パンツの使用を原則に、個々にあわせた支援を行っている。昼間はトイレ誘導を心がけ、トイレ内も使いやすく柵など設け、プライバシーに配慮しつつ、さりげない記録や誘導を心がけて支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より牛乳や乳酸飲料、食物繊維の多い食材を提供している。毎身体操を行い、適度な運動を心掛け、自然排便を促す工夫をしている。便秘症のかたには個々の状態に合わせて下剤の使用量や頻度の調整をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調や希望に応じて入浴をしている。他者に気遣いする事無くゆっくりとのびのびと満喫して貰える様に一人ずつ入浴して頂く事を基本に、楽しく入浴できる様に仲の良い同志と一緒に又、リラックス効果のある入浴剤やゆず湯を使用している。足の血行促進に足浴を取り入れ、マッサージすることも心掛けている。	日曜日以外は、毎日入浴可能であり、午後が原則であるが、状態や希望に応じて朝から入浴やシャワーとなる方もおられ、時には二人で入る方もいる。機械浴の方は隣の老健へ職員とともに出かけている。入浴マニュアルを作成し、活用している。ゆづ湯など季節の物や入浴剤など楽しまれている。脱衣所の床は、職員発案で滑らないようござが敷かれ、椅子も置かれ、ゆったりした空間である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様に努めている。また、一人ひとりの体調や表情・希望にあわせ、ゆっくり休憩が取れる様に支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤飲を防ぐ為、服薬チェック表を作成し、二重チェックをすることにより事故を未然に防ぐ体制をとっている。薬を手渡し飲み込む迄の見守りをしている。月一度、定例受診時には、利用者の日常の症状の変化を伝え、服薬の調整をする等、医療との連携を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえる様支援している。お願い出来そうな仕事を頼み、必ず感謝の言葉をお伝えしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と定期的に外出されている利用者もおられるが、ドライブに行ったり暖かい日はホーム周辺を散歩したり、買い物に行ったり戸外の空気を吸ってストレスの発散にも心掛けています。	ボランティアの方と食材の買い物に出かける時には、近所の回転すしに出かけることもある。家族の方と出かける方や、職員とドライブや、散歩にも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者ではないが、ご家族の理解のもと、事業所がお金の管理をしている。時には衣類を一緒に買いにいき、好みの服を選んだり支払って頂く様に支援している。また、お預かりしている通帳を職員同行の上記帳に行き、残高を把握して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙が届いた時は、お部屋へお持ちし、読んでいただく等、プライバシーの配慮をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、全員で手掛けた作品等展示したりしている。又、季節の移り変わりを感じて頂く為に月行事の飾り付けなども一緒にしている。ソファーにくつろいでいる時は、好きな音楽をかけ、リラックスできる様に心掛けています。	施設内は床暖房で、ゆったりとした造りで陽当たりもよく明るい。食堂にはクリスマスツリーを始め、季節ごとに飾りつけていると伺った。玄関にあるソファーは指定席が決まっており、くつろげる場所である。廊下は入居者の作品が掲示されている。トイレは、間違わないよう、職員お手製の大きめの張り紙がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファーを置き、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士と一緒に寛げるスペースがある。ご自分の指定席があり、思い思いに寛げる居場所を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や調度品、写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。持ち込みの少ない方は、本人と職員の相談のもと居室の雰囲気づくりに努めている。	居室の入り口は、個人持ちのカーテンが目印となり、ゆったり広めの居室は、ベッドと消灯台が備え付けになっている。ご家族の写真や、持ち込みの家具、テレビ、タンス、棚、椅子など個々に自由に利用されている。以前は仏壇を持ち込みの方もおられたと伺った。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線に合わせた位置に名前を貼り、トイレが解り易い様に昔のよび方で大きく書いて表示している。居室入口カーテンは、個々で用意して頂き、カーテンの色や柄で自分の部屋だとわかる工夫をしている。		

目標達成計画

作成日: 平成24年3月4日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	その人らしい暮らしを続ける為の、日々の支援に添ったマニュアルが、一部において作成されていない為、GH独自のマニュアル造りの構築。	当GHならではのケアマニュアルを職員全員で、利用者の目標に添った支援に重点をおいて検討した、尊厳・安心・安全・健やかさに繋がる、ケアマニュアルの作成。	昨年より取り組んできた重点ケアの目標を職員全員で実践に基づいて意見を出し合った共有マニュアルを着実に作成していく。 入浴・排泄・食事マニュアルについては作成し共有している。 感染予防及び処理方法 清掃の方法(トイレ・台所・洗濯)について重点的に取り組む。	6ヶ月
2	2(2)	事業所と地域との付き合い。	GHからも自治会・学校・幼稚園・消防署・注油在所・ボランティア等地域の方々や地元の関係者との繋がりが深まるよう、積極的に働きかけ地域の相互関係の構築を図りたい。	自治会の働きかけ、回覧板を利用したGHでの日常生活や行事の紹介。又、自治センターに展示依頼をお願いしていく。 老人会などへの招待。 消防署・分団や駐在所への積極的な働きかけによる繋がりの強化。 ボランティアの受入体制の整備。	12ヶ月
3	35(13)	災害対策の強化と見直し。	防災に備え、建物周辺の点検及び改善点等の確認や実施。	施設内・外の点検は全職員の目線から危険箇所を見極めたうえ、専門店の方からのアドバイスを受け、優先順位を付け共和会に働きかけて改善出来る所から実施していきたい。 訓練方法も項目別の実施し、手順を全員がしっかり身に付け周知徹底する。	12ヶ月
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。